

第 20 回 自治区制度等行財政改革推進特別委員会記録

日時：令和 3 年 5 月 18 日（火）

9 時 59 分 ～ 12 時 27 分

場所：全員協議会室

【委員】 澁谷委員長、岡本副委員長、三浦委員、村武委員、串崎委員、芦谷委員、道下委員

【議長・委員外議員】 牛尾議員、西川議員

【執行部】 坂田総務部長、佐々木総務課長、佐々木防災安全課長、湯浅行財政改革推進課長、右田監査委員事務局長、
邊地域政策部長、大屋政策企画課長、川合定住関係人口推進課長、
末岡地域活動支援課長、永田まちづくり社会教育課長、
濱見人権同和教育啓発センター長、宮崎関連施設支援室長、
河上教育部長、草刈教育総務課長、山口学校教育課長、田中文化スポーツ課長、
猪木迫教育部参事（健康福祉部長）、龍河教育総務課副参事（子育て支援課長）、
琴野消防長、田中消防総務課長、森下警防課長、
本常行革推進係長

【事務局】 浜野書記

議 題

- 1 まちづくりセンター職員及びまちづくりコーディネーター名簿について
- 2 行財政改革の取組状況について（総務文教関係 2）
- 3 申入れ事項の検討について
- 4 その他

○次回開催 月 日（ ） 時 分

【議事の経過】

(開 議 9 時 59 分)

澁谷委員長

第20回自治区制度等行財政改革推進特別委員会を開会する。
レジュメにのっとして進める。

1 まちづくりセンター職員及びまちづくりコーディネーター名簿について

澁谷委員長

まず執行部から説明をお願いします。

まちづくり社会教育課長

まちづくりセンター職員及びまちづくりコーディネーター名簿について説明する。資料をごらんいただきたい。

令和3年度まちづくりセンター職員名簿だが、網掛けのある職員27名が今年度から新たに採用した職員である。全体では100名となっている。

昨年度との比較だが、センター長の勤務時間が増えていることから単純に比較にはならないが、人数だけでいくと昨年度は88名だったので、12名の増加となっている。

次に令和3年度まちづくりコーディネーター名簿をご覧いただきたい。今年度は6名のコーディネーターを採用している。本日このうち5名のコーディネーターに来てもらっているので、簡単な自己紹介と、勤務後1か月半の取り組み状況についてお話いただく。

では名簿順に自己紹介をお願いしますが、最後の小田原汀さんは本日都合により欠席していることをご了承いただきたい。

佐々木氏

下有福町、有福温泉の隣の出身である。昨年10月まで44年と7か月、日本海信用金庫に勤務していた。浜田市内店舗は平成13年に新町支店が最初の勤務地だった。地元商店会に参加しており、毎年の子夏祭りで出店の手伝いをしている。まちづくりコーディネーターに声をかけていただいたものの金融業界と随分違うので、戸惑いも多い中、担当部署の皆に教えてもらいながら今日に至っている。

浜田市内にはまちづくり推進委員会が立ち上がっていないところが多々ある。周布、笠柄、原井、港町、黒川、高佐、このあたりのまちづくり設立に向けた会議、意見交換に参加している。引き続きいろいろ教わりながら、少しでもお力になればと考えている。引き続きよろしく願います。

内藤氏

4月に入っても金城町だけがコーディネーターが決まらず、これではいけないと4月7日付けでコーディネーターになった。今から50年前に社会教育を担当していたが、金城町をかなり進んだまちにしようと思ってやっていた。当時のライバルは石見町だった。50年過ぎてみるとすばらしい形になっている。公民館には館長に主事が二人もいる。今度はまちづくりになり、

地域の要として、そこで生活し天寿を全うする、そういう社会ができていのだと改めてありがたく思った。

金城6館は全てばりばりやっているのだから、私が調整することも要らないとは思いますが、一生懸命やっていきたい。

塚田氏

旭町出身である。私は43年間行政職員として浜田市民に大変お世話になったので、少しでも恩返しができたらということで、まちづくりをとおして活動していきたくコーディネーターを引き受けた。まちづくりは、地域の中で安心して安全で、そして楽しく暮らせることが必要だと思っている。そのためには多くの方が地域の課題について話し合い、合意し進めていくことだと思っているので、そういう橋渡しをしていきたいと思っている。

この1か月、地区まちづくり委員会の皆に二つお願いしている。一つは地区まちづくり推進計画、平成23年に作成されて見直しされている部分もあるがそのままの部分もあるので、再度見直していただきたいということ。もう一つは、今までは自治区制度ということで地域の個性を生かしたまちづくりを行っていたが、これを一歩進めて、交流元年ということで、地域を超えた交流ができるような交流ができるような計画もつくっていただきたいとお願いしている。

私は10年以上デスクワークをしていて地域内に出ていない。今からは地域に出ていって皆と一緒に汗を流しながら、いろいろ地域課題を解決していきたいと思っている。議員を始め、職員にはご指導ご鞭撻をお願いします。

檜谷氏

もともと教員で、38年間勤務した後、平成28年3月に定年退職した。その後本年3月まで教育委員会で子どもの安全を担当する職員として5年間勤務した。その間皆にはさまざまご指導ご支援いただいたことを感謝する。

私はまちづくりについて特別な知識や資格を持っているわけではないが、これまでの経験を生かし少しでもお役に立てるよう努力したいと思う。よろしくをお願いします。

弥栄地域ではこれまでご存じのとおり、安城・杵束の二つのまちづくり委員会においてまちづくりに取り組んできた。しかし弥栄地域は人口が少なく、また取り組みを推進する人材が不足しているという実態もあり、取り組みの継続性などの面に課題があった。そこで昨年度から両まちづくり委員会を一本化し、弥栄地域が一体となってまちづくりを推進できないか検討され、本年度から組織・規約を改訂し、また新しいまちづくり委員会を立ち上げて取り組みが始まった。

現在は4つの部会において活動計画の策定が進められており、コーディネーターとしてできるだけ参加するようにしている。

各部会では各委員が弥栄の将来を思い、熱心に議論が進められている。今後は各部会で検討されている計画を取りまとめ整理していく。そして今年1年取組を推進しつつ、計画をさらに充実していくことになる。

私はまちづくりの重要な視点の一つは人材育成だと思っている。弥栄地域の将来を背負う子どもの育成、また、まちづくりを推進する人の育成、これを常に意識し、地域の未来を創造する人材育成に努めたい。よろしく願います。

本多氏

看護師・保健師の資格を生かしたコミュニティナースとして、このまちづくりコーディネーターをさせていただいている。私の出身は三隅町で、高校卒業までいたがそれ以降は県外におり、戻ってきて3年目になる。それまでは病院勤務、看護師として急性期を中心に患者ケアをしていたが、こちらに戻ってくるタイミングで、もっと地域の暮らしの中でケアが展開され、身近な健康づくりや元気づくりという視点がすごく大事なのではと思って、コミュニティナースというあり方を身につけた。

今回コミュニティナースとして元気なうちからまちづくり事業をとおして住民と出会える点がすごくよいと思っている。病院で治療するのではなく、地域のつながりやその方の生きがいをとおして元気をつくっていく視点を持って、センター職員や地域の方と一緒に取り組んでいけたらと思っている。

4月から1か月弱だったが、各センターを回って話を伺っているが、今のところはまだ三隅地域での活動が主である。新規で生活支援事業、マーケット運営やサロン活動を一緒にするような事業を立ち上げたいという運営コーディネートであったり、もともとされている口腔ケア事業の手伝いであったり、一見健康とは少し遠いように見える防災デイキャンプといった企画も、普段からの地域のつながりが大事な視点だと思うので、そういう事業にもコミュニティナースの視点からの助言や支援をさせていただいている。

三隅には小田原というコミュニティナースが一緒に入っているが今日は都合がつかず申し訳ないと聞いている。彼女は江津市でまちづくりNPOでのコミュニティナース経験もあるし、実践レベルのコミュニティナース活動も積極的にやっている。二人で力を合わせ、地域の方と一緒に展開できたらと思っている。どうぞよろしく。

澁谷委員長

今、ソサエティ5.0やまちづくり3.0という言葉がはやりである。人口減少の中で行政が何から何まで対応することが不可能になりつつある。浜田市も人口減少スピードが加速し、二十数年後には人口が3万人を割る予測となっている。市民と一緒に頑張ってまちづくりを進めていかざるを得ない。自治区制度が

廃止になり、コーディネーターの双肩にかかっているという点もあろうが、プレッシャーを感じることなく楽しみながら市民と一緒に取り組んでいただきたい。

9月には活動の中の皆のご苦勞、ご意見、気づきなどの意見交換もこの委員会でさせていただきたいと思う。何とぞよろしく願います。

本日はお忙しい中、ご出席いただき厚くお礼申し上げる。
では退席いただいて結構である。

《 まちづくりコーディネーター退席 》

2 行財政改革の取組状況について（総務文教関係2）

澁谷委員長	前回に引き続き、早速随時課長から願います。
行財政改革推進課長	各項目ごとに各課長から各課内での取り組み状況について説明させていただきたい。
総務課長	（以下、資料をもとに説明）
行財政改革推進課長	防災安全課長については、本日出張のため欠席している。
澁谷委員長	防災安全課については次回に課長から説明いただくことになっている。続いて願います。
監査委員事務局長	（以下、資料をもとに説明）
政策企画課長	（以下、資料をもとに説明）
定住関係人口推進課長	（以下、資料をもとに説明）
地域活動支援課長	（以下、資料をもとに説明）
まちづくり社会教育課長	（以下、資料をもとに説明）
人権同和教育啓発センター長	（以下、資料をもとに説明）
関連施設支援室長	（以下、資料をもとに説明）
教育総務課長	（以下、資料をもとに説明）
教育総務課副参事	（以下、資料をもとに説明）
学校教育課長	（以下、資料をもとに説明）
文化スポーツ課長	（以下、資料をもとに説明）
消防総務課長	（以下、資料をもとに説明）
警防課長	（以下、資料をもとに説明）
澁谷委員長	以上全ての課長に説明していただいた。各委員から質疑を受けたい。
串崎委員	総務課長にお聞きする。37番、内容的には三隅支所一人減という話だったが、あとは何をどのようにすればこれが達成できるか。
総務課長	すでに令和2年度から三隅の日直を一名減したことで、今回の実施計画内の効果額は累積でいうと令和3年度末で達成している。今回の実施計画ではこの見直しで終了という位置づけである。

- 串崎委員 電話交換士も総務課でカバーという話だったが、これはスムーズにいつているのか。
- 総務課長 従来は電話交換専門員を二人配置していたが、会計年度任用職員ということで17日勤務の制約があるので、総務課係員全体でカバーしている。交換業務自体は回っている認識だが、総務課の中に今までなかった事務が入ってきたという意味合いでは、総務課係員の負担にはなっている現状があるが、電話交換自体には問題ないものと思っている。
- 串崎委員 監査委員事務局長に伺う。時間外をなくしたという内容だったが、何時間あったところをどのくらいを目標にしてどのくらい減るのか。監査としてどのように分析されているか。
- 監査委員事務局長 目標設定などはしていないが、実際の数字でいうと令和2年度には5月と7月に時間外が若干出ている。5月に9時間、7月に4時間あるが、5月は定額給付金の動員関係であり監査業務による時間外ではない。7月は決算審査の関係で業務量が多くなるのでやむを得ない部分もある。先ほど説明した定期監査と行政監査に関する部分では一切残業は行っていない。
- 串崎委員 数字で言えばどのようか。監査なら数字で把握しているのでは。
- 監査委員事務局長 数字としては把握していないが、行政監査と財務監査である定期監査に行政監査を盛り込みだしたのが平成30年度からである。それをすることで何がどう短縮になるのかという、それぞれ監査を行うと事前審査、監査委員を交えた本監査で、それぞれ会議が行われ、会議録作成が生じるのだが、財務監査と行政監査を一つにすることによって今まで二度ずつやっていたものが二度で終わるといった短縮になっているのは確かである。
- 串崎委員 学校教育課長の言葉で気になったのが、職員を増やさず仕事量は増えており、負担があるが頑張っていると言われた。その負担は大丈夫なのか。
- 学校教育課長 大丈夫かといわれると、使命感を持って職員は頑張っていると思う。どうしても一人一担当というものがある。今学校の教育課程は指導主事の先生を配置していただいたり県から派遣してもらっており、教育課程のほうは学校に精通した先生で対応ができていますが、実際の、コロナで予算をつけていただいて充実している部分によって入札業務、発注業務、学校25校にまんべんなく整備する環境づくりを、企画立案から職員一人が一生懸命考え、協議しながら進めるが、あれもこれもやるという状況が慢性的に生じている。皆本当に使命感でやっている。
- その中、GIGAスクール構想でとんでもない数のパソコンの設定が急にあったり、入札業務を滞りなくやるためにも、仕

様書の精査、ミスがあつては困るのでいろいろな業務のチェックでどうしても負担が増えている。

ただ、4月以降に私は異動したが、健康管理が一番なのでできる限り時間内で済むように私も事務をしている。少しでも一人に偏らぬよう目配りしている。まず健康に留意して取り組んでいる。

人は全庁的に足りない状況は重々わかっている。

串崎委員

一応これ行革会議で、何でもかんでも減らせばよいわけではない。今の課長の言葉、GIGAスクールが一番大事なので、状況把握はなかなか難しい。もし回らないなら方法を考えていただきたい。

最後になるが石央文化ホールの経営改善について。今はどのような経営状態で、どのように改善するのか。

文化スポーツ課長

昨年度でいうと関連施設支援室と連携して検討を進めている中で、県内自治体の類似施設の調査を実施している。これまででも人員配置や事務局体制などを検討していると伺っているが、ご覧のように各施設とも専門性があるため人事異動が容易ではないという課題が出ており、人員配置の見直しが難しい状況にある。その中で県内自治体で参考になる手法がないか探すために類似施設調査から始めている。

串崎委員

内容はわかったが、経営的なことはどうか。

文化スポーツ課長

当然令和2年については当初想定していた利用者数には及ばないので、経営状況についてはさらに苦しくなっている。減収分は年度当初の補填もあったが、コロナがまだ完全に収まっていない、いつ終息するのか、回復期にどれくらいかかるのかという大きな問題もあるが、現実問題として令和2年度の石央文化ホールの利用者を見ると対前年比で25%程度となっているため、経営状況はかなり苦しい。

2年度の状況報告については5月末までに提出予定なので、そこからまた内容を検討していきたい。

三浦委員

44番の婚活関連業務の外部委託だが、財政効果額としては完全に委託して100%の割合で出されている。行革全体に係る考え方なのだが、コストが削減されたからよい、だけではなく、実際にはその業務の成果が上がるとか、そういう部分が一番大事である。この婚活関連業務を外部委託することによって得られた事業の効果は、実際にはどうだったのか。

定住関係人口推進課長

おっしゃるとおり行革で単に経費を減らただけでなく効果がどうだったかは大変重要だと思っている。この事業によって例えば成婚までいたるところが最終的な効果だと思うが、大変申しわけないが委託先などに、成婚がどれくらいあったかの調査が足らなかったなので、また調べて報告させていただく。

三浦委員

何組がとか、何人が対話したのかというはかり方もある。成婚までというのはなかなか追いかけていくかと思うが、そうしたKPIの設定については今一度見直ししながら、この行革視点と事業効果については両側面で効果測定していただきたい。

それはこの事業だけでなく全事業にかかわることだと思うので、各課には改めて行革の観点を認識していただきたい。

それと同じような視点で伺うのだが、51番の公立幼稚園の統合について。ここは財政効果額などの数値が含まれていないのは、記入できないのか、それとも記入しないのか。

教育総務課副参事

令和2年度は方針を出したままで、実績として園の数が減ったわけでもない。実際は令和5年度に統合することで財政効果が出てくるものと思う。今思われるのは施設の修繕に関する経費や、統合によって削減された人件費などが上がってくるかと思われる。

三浦委員

計画額というのはどの時点で示されるのか。令和5年度に統合ということで、その計画をするに当たり財政効果額が行革の視点でどのくらい削減見込みがあるのか、逆に統合することで場合によっては、どういう統合園をつくるかによってはコストがふくらむ部分もある。そうしたことを考えての行革項目だと思うのだが。いつのタイミングでここに数字が入るのか。本来なら試算された上での統合方針だったりすると思うが。大まかに「統合する、試算はこれから」ということなのか。

教育総務課副参事

内部協議では試算などはしているが、まだ明らかにはできない状況である。今年度は統合新園の建設について検討することとなっているので、それにかかる経費もあるし、先ほど言ったような削減できるものについていつ明確にできるかは、今後検討していく中で出せる時期にお示ししたい。

行財政改革推進課長

現在この計画については今年度で終了となるが、次期計画への継続項目については改めて掲載する予定のため、引き続きローリングなども行う中でまた金額などについては計上させていただきます。

三浦委員

もう一つ55番について。それぞれの施設の管理運営費の見直しということで割合が50%となっているが、もう少し詳細な説明をいただいてもよいか。

文化スポーツ課長

本日配っている表の計画額のところが145,300となっている。これは当初27年度を基準として28年度からの計画を立てたときの数値である。令和2年、3年については計画額が変更となっており、現在最終年の累計計画額は1億1,615万5千に訂正いただきたい。そちらで現在出ている令和元年度までの実績額7,241万3千を割ると、進捗割合は62.3%が正しくなる。

令和2年度単年度では1,189万4千という計画額を出してお

り、現在の見込みでは1,290万円程度の効果額が確保できそうである。令和2年度終了時点では全体の73.5%程度の達成率になろうかと思う。

それぞれの施設の合計額で効果額を算出しているの、文化ホールの人件費など、働き方改革の見直しで上がったたりしているが、ほかの減額部分でカバーしてそれだけの効果額を生み出している。

三浦委員

ではその数字も更新しながら適切なタイミングで更新されるということによいか。それならよい。

各館の管理運営費の見直しの中に、人員配置の難しさなど課題もいろいろ上げられたが、こうした文化施設の経費削減によって人員が削減されたり。特に世界こども美術館は歴史文化保存展示施設の併設だとかで大きな変化がこれから生まれるのか生まれないのか、いろいろ議論されているが、こうした施設における人員削減や管理運営費を削減する方向に持っていくことで、施設利用者に対するサービス低下などが招かれないよう考慮しなければならない。そういう配慮はしっかりされた上での計画額なのか。

文化スポーツ課長

現在毎年の効果額を生み出している大きなところでは、以前はあった石正美術館名誉館長への報酬や、絵画額装費が27年度と比較して大きく削減している。現在はそれが中心なので、直接体制に大きく影響があるような減額は発生していない。

体制の見直しについても当然利用者の満足度向上などもあるし、方針の見直しだけでなく働き方改革の中で有効にシフトが回るような回転ができないか、類似施設、スポーツ施設で何か整理ができるところで見直しができないかということ検討を進めたいと考えているため、現在のところ直接影響は出てないと思う。

澁谷委員長

文化・スポーツ振興は人の世をのどかにし、人の心を豊かにする、市民の幸福感や満足度を高めるものなので、バランスに十分配慮しながら。減らせばよいものではなくそこに哲学が必要である。教育委員会でご検討いただきながら対応をお願いします。

道下委員

浜田地域のまちづくり委員会を立ち上げる件だが、前年度は立ち上がりがなく、今盛んに取り組まれている。自分の視点から見てどこに問題点があるとか、どういう評価を自分なりに持っているとか。早く立ち上げるに越したことはないが、より効果のある立ち上げ方をしないと。そういうことを視点に入れて今の評価や考え方を聞いてみたい。

地域活動支援課長

実際に私は4月にこちらに来て、幾つかの町内で話を聞かせてもらって感じているのは、たちまちの生活の不自由がないの

	<p>で、地区まちづくり推進委員会にすることによって役職が増えて負担が増すと感じておられる方が多いことである。ただ、いつまでもこの状況が続くわけではなく、人口が減ってお互いに助け合っていないといけない環境をつくっていくためには、地区まちづくり推進委員会の設立は必須と考えているので、そういった住民の不安感を取り除いたり、設立するメリットを説明したら、十分に理解いただけると思っているので、今年度以降に特に力を入れて進めていきたい。</p>
道下委員	<p>職員で行かれる体制にプラスアルファがあればよいとか、そういうことはないのか。コーディネーターの考え方を取り入れて持っていくなどしないと、また役職がついたら嫌だとか言っていたら前に進まない。地域のために、まちづくりのためなら一肌脱ごうといったところが出てこないか。今の取り組みをワンステップもツーステップもしていかないと、今のままずるとよいことにならない気がするのだが。</p>
地域活動支援課長	<p>そういった不安があることは十分承知している。そのためにも今年度から配置したまちづくりコーディネーターと、まちづくりセンターを活用して我々職員と併せて委員会設立が進んでいくよう取り組みたい。</p>
道下委員	<p>大変な職務だろうがぜひ頑張ってください。コーディネーターの意見を取り入れて、地域がより活発になるところが見えてきたらよい。</p>
	<p>もう一点消防について。消防団員が減少している。大田市の消防団は100%の定員を保有しているらしいが、それをどう捉えているか。</p>
警防課長	<p>ご指摘のように県内で定数に対する充足率100%に達している消防団は大田市のみである。一方当浜田市は3月31日現在で定数1,065に対して839、充足率は80%を切っている。県下のその他消防団についても同じような状況が続いている。現在の定数は合併当時に各自治体で構成されていた消防団員数の定数をそのまま合算した数字と認識している。合併からかなり時間がたっているので、現在の社会情勢を踏まえると定数割れの歯止めがかからない、歯がゆい状況が続いている。</p> <p>現在国から、消防団減少に何とか歯止めをかけねばならないという検討会が進行中だが、その中間報告において、報酬の改善を図るべきと受けて消防庁長官より通知が出ている。これは一定程度歯止めがかかる要因となる可能性があるため、警防課で他市、国、県の状況を調査し、しかるべき報酬に改定する計画を持っている。</p> <p>しかしながら、報酬改善だけでは非常に厳しい。やはり消防団員になっていただく、いわゆる働き盛りの動ける消防団員の</p>

	<p>確保というのは絶対数が減っているの、地区においては新たに消防団員になっていただく年齢層が残り1名、2名という地区もある。消防団車庫の統合という形で表現しているが、基本的には集約または拠点化という考えをもって対応しているので、報酬改善も含めて合併当時に足し算を行った定数を、社会情勢に合わせての削減も今年度検討していかねばと考えている。</p>
道下委員	<p>だから大田市は定数を社会情勢に合わせて減らしたから充足数100%に達していると考えているのか。ほかの視点があるのでは。</p>
警防課長	<p>その辺は細かく分析していないが、定数を下げたことも大きな要因だろうと思っている。</p>
道下委員	<p>それはない。そういう点の分析もしっかりしていただきたい。行革ありき、経費削減ありきではなく、中身が拡充できて初めて経費削減ありき、そういう視点をもっと持っていただきたい。</p>
警防課長	<p>先ほどの説明の最後にも言ったが、削減することが目的とは思ってない。これは消防団の現状の要望に応える中で、なるべく消防力を低下させない方法を主眼に置いている。これになるかわりとして、今回6月議会でも説明したいと思っているが、消防団の組織再編、いわゆる方面体制の組織を新たに発足したいと考えている。消防力低下を防ぎつつ、団員確保には当然十分に頑張っていきたい。</p>
澁谷委員長	<p>定数の問題は基準財政需要額にカウントされる問題もあるので、総務部と緊密にどういうのが浜田市の姿なのか議論していただきたい。</p>
村武委員	<p>総務課の宿直監視員業務の見直しについてお伺いする。機械警備化が困難な状況であると書いてあるが、住民サービスというのは婚姻届けや死亡届ということか。</p>
総務課長	<p>そうなる。</p>
村武委員	<p>件数的に年間どのくらいか。</p>
総務課長	<p>年間大体トータルで520件程度処理している。</p>
村武委員	<p>それは本庁と支所合わせてか。</p>
総務課長	<p>全体合わせてである。本庁が約450件、支所全体で70件程度という内訳である。</p>
村武委員	<p>推移はどうか。減っているのか。</p>
総務課長	<p>基本的には横ばいである。</p>
村武委員	<p>理解した。次に電話交換業務の見直しについてだが、令和元年度から1名減、年間150件程度とおっしゃったが、これも減っているのか。推移を教えてください。</p>
総務課長	<p>直通電話が各課にそろえられて以降、落ち着いた段階からの統計でいうと大体平均して一日あたり150件程度で横ばいの状</p>

<p>村武委員</p>	<p>況である。</p> <p>ホームページを見ると担当課の電話番号にリンクが張ってあり、スマホからなら直接かかると思う。以前はそうになってなかったの、便利になったと思う。担当課に直接かけていただくための周知はどのようにされているか。</p>
<p>総務課長</p>	<p>年に一回は広報はまだで各課の機構改革などを掲載しているので、そこで周知すると同時に、ホームページなどで対応させていただいている。</p>
<p>村武委員</p>	<p>現在は電話交換手と総務課の職員が一名入っていて、そこが総務課として負担だとおっしゃったので、もう少し減るとよいと感じるのだが、直接かけていただくよう市民にもう少ししっかり周知したらどうか。</p> <p>それから地域政策部の地域活動支援課で、地区まちづくり推進委員会の設立推進が入っている。今年度からまちづくりセンターとなりまちづくり社会教育課というのができた。私の中ではまちづくりセンターの役割として、まちづくり推進委員会といった組織の推進もまちづくりセンターの中に入っていると思っていたのだが、ここは地域活動支援課とまちづくり社会教育課のすみ分けはどうなっているのか。</p>
<p>まちづくり社会教育課長</p>	<p>地域活動支援課とまちづくり社会教育課のすみ分けだが、うちではまちづくりセンターの管理運営が当課で、地区まちづくり推進委員会の設立までは地域活動支援課に担ってもらう。ただ、先ほどもコーディネーターがいたが浜田ではまだ全地域にまちづくり推進委員会ができていないので、コーディネーターと地域活動支援課とで一緒に地域に入り、設立を促進する。でき上がった後は地域活動支援課もまちづくりセンター職員もその支援を一緒になって行うように考えている。</p> <p>設立も多少一緒になって関わっている地域もあるので、その地域の要件に応じながら。庁舎3階に隣り合わせに課があるので、横の連携を取りながら進めていきたい。</p>
<p>村武委員</p>	<p>まちづくりセンターになる以前に、浜田自治区以外の公民館では深くまちづくりにかかわって、組織や活動が推進されていた。これは公民館がかかわっていたからというところもある。そういうことを考えるとすみ分けも難しいのかと思う。しっかり連携を取って進めていただきたい。</p>
<p>芦谷委員</p>	<p>電話交換業務は人員削減とのことだが、広報を見るとくらしのサービスガイドというものがある。問題は、市役所へ電話する方にこうしたサービスガイドも紹介しながら対応しているのか、それは分からないと答えているのか。</p>
<p>総務課長</p>	<p>質問の意図がわからないのだが、電話交換でそれをアナウンスしているかということなら、電話交換は取次業務をしている</p>

芦谷委員

ので、その辺のアナウンスはしていない。

新型コロナウイルスのことやワクチン接種のこともある。市民が電話してみて、いわゆるたらい回しになってはいけない。電話交換業務とは市役所の玄関なので、そういう対応ができるような職員体制の充実や研修も含めてやっていく必要があるという立場で発言した。

総務課長

実際に電話交換業務に当たっている職員は、電話交換室には配席表までを用意して、どの担当につなぐか熟知した格好でつながるようにしているので、単にその課につなぐというよりもっと掘り下げた格好で要望をお聞きしてつながりよう配慮している。

芦谷委員

了解した。先ほどコーディネーターの話聞き、いろいろな話が出た。思いは大事だがその全体を束ねて調整しながら、市として一体のまちづくりを進められるのかと感じた。私は周布地区でまちづくり推進委員会に立ち会っているが、悪いが市のほうで地域の公共的な、公益性のある市民活動の把握が弱い。すこやか員は健康づくりを進めるのだが、あろうことかまちづくりに入ってよいかどうか、すこやか員にアンケートを取ろうということがあったらしい。地域安全推進委員、防犯協会なども今まで入ってなかったのだが今度から入れるということで。もう少し地域の営みや市民の公共的・公益的活動については、しっかり束ねて行政が支援しないと、社会福祉協議会などもほとんど呼ばれてない。公民館とまちづくり推進委員会の主動でいっているの、それ以外の福祉や環境のことが少し手薄だと思う。本庁でしっかり横の連携を持って、問題を共有し、思いを同じにして進めることを質問する。

地域活動支援課長

4月に来たばかりで分からないこともあるので、福祉担当者とも協議なども行い、いろいろなところで各種団体も参加してまちづくりをやっていこうと話したところである。

コーディネーターやまちづくりセンターも含め、本庁・支所も含めて連携会議を行って進めようとしているので十分やっていきたい。

まちづくり社会教育課長

冒頭にコーディネーターの話があったので補足する。現在、コーディネーターは各支所に駐在して活動しているが、基本的には全市が活動エリアとなっている。定期的に研修会や情報交換会を開いて情報共有しながら進めていくよう考えているし、地域課題によっては複数人や全体で取り組んだほうがよいことがあれば、その地域に入っていく体制も考えている。その辺は柔軟に動いていただく。

芦谷委員

ずっと一般質問でやっている。今の感じでいけばコーディネーターに全てお任せで。言いたいのは、本庁がしっかり連携を

岡本副委員長

持って前に進める体制をつくってほしい。まちづくりは全て地域にお任せで、市はやっているがなかなか実現していないという感想を持っている。

52番の青少年サポートセンターについてお尋ねする。財政効果として1,630万5千円と表示されているが、具体的に管理運営費をどういう形で見直して、これだけの金額が出たのか。私は青少年サポートセンターのあり方が充実しているとは思っていない。この金額的な意味をお尋ねする。

学校教育課長

青少年サポートセンターを設立した際に大辻にある山陰合同銀行西出張所をお借りして運営していた。民間の建物や敷地全体をお借りするのはコストがかかるため、平成28年度に旧警察署の1階を間借りさせてもらった。その後平成29年に浜田市が警察署を取得したため、取得するまでの間は賃料を払っていたが、浜田市が取得したことで賃料が不要となった。ここに上げているのは島根県警の28年度以降の金額なので、本来払うべき部分がなくなったのと、水道光熱費が不要になったことにより、効果額として上がった。

岡本副委員長

多分そうだろうと思っていた。山陰合同銀行西支店の面積を見て、このたび北分庁舎に行っているが利用目的からしてかなりスペースが狭くなっているため、サポートが手薄になってないか。

学校教育課長

今は旧警察署の2階が事務所になり、その横が活動スペースとなっているが、基本的に青少年サポートセンターに通所されている方は限られていて、毎日20人、30人というわけではない。利用申し込みをいただいて対応している。基本的に電話対応や個別訪問などの相談業務が中心なので、今は何とかできている。スペース的には支障がないと認識している。

岡本副委員長

山陰合同銀行西支店に行くとき、子どもたちがいろいろなところを経由して来なければいけないことを心配している、だから独立した施設がよいのだという説明を執行部から受けた記憶がある。このたび北分庁舎へ移り連携面はよいと思うが、子どもたちは行っているのか、減ったから施設的に不要になったのではという心配もしているのだが、見解があればお願いします。

学校教育課長

困り感を持っている方が施設を利用されている。現在は北分庁舎2階にやまびこ学級もある。利用者は外から2階に上がるようになっており、市職員のいる窓口の前などを通らず、人目を気にせず利用できる体制になっている。

利用がないからこうなっているのではとの指摘だが、小さいころから不登校などの困り感を持ち、成長する中で青少年サポートセンターの利用につながっている子もいるので、市としては居場所づくり、社会に少しでも適用できるようなサポートの

岡本副委員長

ためにセンターは必要だと考えている。精査しながらよい形で事業を進めたい。

早く引きこもりの子を社会復帰につなげるようお願いする。

もう1点、50番の学校給食施設の統合について。統合については議員からいろいろな意見を言ってきた。三隅は非常に距離が遠いためトラブルがあったらどうするのかという話が出て、どうしても独自のものを持ったという記憶がある。

浜田三隅道路ができてもう何年もたつし、その点は改善されたと思っている。次の学校給食施設の統合は前に進むべきではないかと思っている。現在の取り組み状況はどうか。

教育総務課長

三隅については自校調理場方式でやっている。調理場のメリットは当然あろうし、センター方式のメリットもある。自校方式にこだわりもあった。施設が古くなっているし、このままいっても更新は必要になってくるので、そのときに費用対効果としてどういう形での整理がよいのか。例えば一つの案としては三隅の中で一つのセンター化ということもあろうし、どこかの学校からどこかの学校へといういわゆる親子方式もあるかと思う。施設老朽化、児童生徒の数も踏まえて、市全体のセンター配置のあり方も踏まえ、適正なところに適正なものをという視点から検討を進めている。

岡本副委員長

現在はつかっていただくが、その施設が老朽化し何らかの予算投下が必要となったときにこれを考えるということか。

教育総務課長

何らかの資源を投下する必要は当然あるが、それを待ってセンター化を検討するのではなく、児童数やもろもろの要件もあるし、交通や配送ルートの問題もある。それらを踏まえて。施設老朽化してから考えるのではなくそれまでの間に、事前準備として考える。地元の考え、教育委員会の考えもある。意見を慎重にすり合わせ、よりベターな形を模索検討したい。

岡本副委員長

単年度で考えるのではなくある程度長期的に見るスタンスであると解釈してよいか。

教育総務課長

全体では長期的なところ、日々の給食は止められない、地産地消も推奨する、短期・長期両方を踏まえてバランスよく進めていく。

澁谷委員長

今日は学校教育課長から、人手が足りないような発言があった。そういう発言はこの委員会ではしてほしくない。なぜならそれはマネジメントの問題だからである。浜田市は人口千人当たりの職員数が12人で類似都市で最悪の自治体である。人件費が60億円も超えている自治体はない。マネジメントするためにイノベーションということもある。この委員会でそのような発言をするのは、教育委員会はなっていないと自分で言うようなものである。内部会議ではっきり発言して改革せよ。ここで

言うべきではない。自分たちで自分たちの無能力さをさらけ出しているようなものだ。戦略の失敗は戦術ではカバーできない。

今日は最初に行財政改革推進課長に小言を言った。六つの課のコメントが入ってない。行革の計画内に入っていないからなのだろうが、今日は全課長が出ている以上は行革の計画になくとも何か入れて、きちんとした資料を出してもらいたい。このような資料が出てくるから水道部も1億5千万円の議案だけ出てきたりするのだ。十分対応いただくようお願いする。

では議題2については終了する。執行部は長時間にわたり協力感謝する。休憩に入る。再開を45分からとする。

答弁漏れで追加の発言を要求されているため、定住関係人口課長からお願いする。

[11時40分 休憩]

[11時45分 再開]

澁谷委員長
定住関係人口推進課長

答弁漏れということで、追加の発言要求がありました。

先ほど三浦委員からの質問に回答できなかったので資料を持ってきた。これまでの外部委託による実績だが、令和元年度については2回のセミナーを行っており、参加者が合計79名だった。令和元年度はセミナーだけなのでマッチングイベントはやっていない。

令和2年度はセミナーを2回と最終回に男女一緒のセミナーを開催した。コロナの影響もあり出席者が少なかったのだが3回のセミナーで46名が出席した。1回目は男性向け、2回目は女性向け、3回目が男女一緒のセミナーという形で、ちょっとしたマッチングの機会もつくられていた。3回目のセミナーでよい雰囲気になった男女がいて我々も期待したのだが、残念ながら成婚には至らなかった。

外部委託によって成功に至ったケースはなかったのだが、参加者が引き続き結婚支援を行うNPOの力を借りながら、新たな出会いに向けて進み、幸せな生活がおくれるよう期待している。

3 申入れ事項の検討について

澁谷委員長

先般各委員から説明をいただいた。今日はその提案事項についてそのほかの委員からご意見を頂戴したい。まず自分の提案した申し入れ事項を読み上げていただきたい。

三浦委員

(以下、資料をもとに説明)

澁谷委員長

三浦委員の提案について、そのほかの委員から意見をいただきたい。

- 道下委員 私もデジタルトランスフォーメーションについて調べたのだが難しい。
- 芦谷委員 市の行革項目を見るとＩＣの推進や庁内業務システムの見直しなどがあるので、もし必要ならこういったキーワードを入れ込んで申し入れたらどうか。
- 岡本副委員長 私個人がこれを理解できてない。視察ができない状況で情報収集が難しい。今後皆と共有する形で提案になればよい。
- 澁谷委員長 これを一つにまとめてもらい、3番目の地域通貨の導入などは、仮想通貨のことか。
- 三浦委員 いろいろなものを含めて。
- 澁谷委員長 今の浜田市のレベルに合わせたものを。デジタルトランスフォーメーションやゼロミッションビルディングのルール化などが必要なのだろう。その辺を時代背景を考慮し、SDGsなどあなたお得意の言葉も入れながら再度提出いただきたいのだが。今月いっぱいくらいまでに。
- 三浦委員 今回のこの申入れ内容の提案については、①などに書いている項目は具体的に上げさせてもらった。DX推進や環境への配慮といったところをテーマに、もう少し大きな枠組みの提案に書きかえるということで、今月中に対応したい。
- 澁谷委員長 浜田市には子育て支援アプリにも対応できる職員がいない自治体だという面からすると、非常に高度である。これに対応するために常勤職員を用意する自治体もある。三浦委員が指摘する内容は必要だとは思いますが、浜田市がモチベートできるよう願います。
- 村武委員 二人目、村武委員願います。
DXの推進を提案させていただく。
(以下、資料をもとに説明)
- 澁谷委員長 私はDX全般を推進していく必要があるのではないかと提案したい。
- 澁谷委員長 ほかの委員から意見はあるか。
- 三浦委員 村武委員のこの申入れ内容は私が項目を列挙した、その前段部分だと思うので、私も村武委員と再度相談して一緒にまとめていく形でもよいと思った。
- 澁谷委員長 そうしていただくとよい。村武委員はどうか。
- 村武委員 可能だと思う。できればこの委員会の皆はDXの先進事例について勉強する必要があると思う。視察が難しいとは思いますが出雲市もこれを進めているので、視察に行けないならオンラインで情報を聞くなどの手段もある。できれば皆で勉強していただきたい。
- 澁谷委員長 村武委員は三浦委員と合わせて今月いっぱいまでに再考を願います。

<p>串崎委員</p>	<p>では串崎委員お願いする。 一応読み上げる。</p>
	<p>(以下、資料をもとに説明)</p>
<p>澁谷委員長 道下委員 串崎委員</p>	<p>この串崎委員の案に対して意見をいただきたい。 地元就職が令和2年度は結構あったように思ったのだが。 資料は担当課からいただいたので間違いないはずであるが、 再度調べてみる。</p>
<p>道下委員</p>	<p>まさに何のために地元で県立大学があるのか。提案に値する と思う。</p>
<p>三浦委員</p>	<p>県立大学との連携という部分は私も賛成である。新設学科も できて地域活動へ大学にかかわっていただくなど可能性もあ ると思う。その上で行革としてこの申し入れをする際、行革の 視点をどのように盛り込むかがもう少しあるとよいと思った のだが、串崎委員はどのようにお考えか。</p>
<p>串崎委員</p>	<p>最初から申し上げているように、思いが強すぎて視点が違う とは思っている。まだそこは考えていない。</p>
<p>澁谷委員長</p>	<p>コストとパフォーマンスが曖昧なので、もう少し具体的な効 果が予測できる形に書き直してもらいたい。今月いっぱいをめ どに。</p>
<p>串崎委員 芦谷委員</p>	<p>了解した。 これは施政方針にある。これをそのまま出しても執行部は 「やりますやります」で終わるだろう。具体的に政策として、 例えば官民合わせた実行委員会をつくるとか、実施本部をつく るとか、場合によっては議会が関与して市民総参加の大学と連 携する条例をつくるとか、具体的に目に見える形でやったほう がよい。</p>
<p>澁谷委員長</p>	<p>芦谷委員の意見も加味しながらお願いする。ほかにあるか。 では次に芦谷委員お願いする。</p>
	<p>(以下、資料をもとに説明)</p>
<p>芦谷委員</p>	<p>芦谷委員の提案についていかがか。</p>
<p>澁谷委員長 三浦委員</p>	<p>各事業の評価項目の状況を確認するのは非常に必要だと思 う。その上で芦谷委員がここで指摘されている、進行管理体制 についてだが具体的にどのような進行管理体制を整えること でこうした評価をチェックし、さらにその後押しをすることが できるか。その部分が申し入れの内容になると思ったのだが。</p>
<p>芦谷委員</p>	<p>執行部をしてパターン化して、BCDE評価をしたものは次 年度にその結果や後始末について報告する。それを通年的・経 年的に見ていって市民にも我々議会にも、行革や事務事業評価 の実施状況がわかる。 どちらかという今まで報告のしっぱなしで、後の点検はし ていたのかと感じている。</p>

澁谷委員長

このままでは申し入れ事項としてどうなのかと感じる。口頭で言えばよい。もう少し精度を高めていただけないか。今月末までに使えるものの提出をお願いします。

続いて道下委員をお願いします。

道下委員

(以下、資料をもとに説明)

澁谷委員長

道下委員の提案についてご意見は。

三浦委員

ご指摘のように人材育成・活用とは職場において大事である。特に(1)に書かれているような、どういう職員を採用していくのかは、採用戦略をきちんと持ってやっていくべきである。不勉強で川崎市の人材育成基本方針というのは拝見していないが、人材をどう育成し活用していくかという方針のもとに採用戦略や職場改善の計画はきちんと示してほしいと私も思う。そのあたりはもう少し加筆すると、執行部にもより具体的な取り組みとして提案できるかと思った。

澁谷委員長

項目が上がっているだけなので、もっと肉づけ、もう少しモチベートできるようにプラスして、今月いっぱいまでに再提出いただけたら。お願いします。

続いて岡本副委員長をお願いします。

岡本副委員長

(以下、資料をもとに説明)

澁谷委員長

副委員長の提案について意見はあるか。

三浦委員

ご提案の特に1については大変共感する。私の提案にも「環境への配慮」が含まれているが、今後既存の建物もそうだが建物管理に必要な、建ててから解体するまでの障害費用試算はきちんとしないと、今後の公共施設再配置計画も本当に実効性があるのか判断しにくい部分になるかと思う。環境への配慮と、そうした側面からの今後の新しい施設への建設計画といった観点から、こうした建物解体費用などライフサイクルコストを試算するのは非常に大事な考え方だと思う。

澁谷委員長

ほかには。

(「なし」という声あり)

最初の部分は大変結構だと思う。これを申し入れ文書の形に整理していただければ。2点目は、人材が不足しているのは建設部門だけではない。その辺も加味していきながら、今のまちづくりの中の安全安心についての危機感があるので、土木をという、それも加味していただきながらという言い回しに。今月いっぱいをお願いします。

最後に私の申し入れである。

(以下、資料をもとに説明)

三浦委員

これについてご意見を頂戴したい。

詳細に法律違反なのかというところは私も明確に言えないが、市役所敷地内での喫煙部分については、検討するという回

- 答が続いているが、あまり状況が変わってないように思うので、明確に方針と対応を示されるべきだと思う。
- 芦谷委員 庁舎管理体制を再度確認しながら、その辺のチェックはしてあるのかを申し入れたらと思う。
- 澁谷委員長 先ほどの意見を参考にして書きかえ、今月いっぱいまでに提出したい。
- 2番目の職員の人材育成について。
(以下、資料をもとに説明)
- この提案についてご意見を頂戴したい。
- 岡本副委員長 私も資格取得が必要だと申し上げたが、明確に処遇に反映されるという項目があり、当然そうだと思う。よい提案だと思う。ただ、諫言の職員ということについては私の中ではどうかと思う。
- 三浦委員 先ほど岡本副委員長の提案にもあった資格の部分だが、これは実際に、特に建設関係の資格は採用されてから取得すると処遇が改善されたり、現状どうなっているか。
- 澁谷委員長 ないと思う。
- 三浦委員 ないのであれば、この提案は大変よいと思う。道下委員が採用のことに触れられていたが、そういう部分ともつながるし、非常によい提案だと思う。
- 澁谷委員長 これも先ほどの意見を参考に書き直して、今月末までに書記へ提出したい。
- 3番目。
(以下、資料をもとに説明)
- この点についてご意見は。
- 三浦委員 適正な人員によって組織をスリム化し以降は全く同意である。今日の委員会の中でも、業務はこうしたいが人が足りないという発言が執行部からもあった。そうした組織マネジメントも併せて提案できると、人件費抑制と組織のスリム化及び業務の効率化も含めて一層よい内容になるという印象を持った。
- 芦谷委員 道下委員の職員採用の問題、それから澁谷委員の2項目、人材育成と人件費抑制と、組織のスリム化。これらはほぼ共通している。市のつくった取り組み状況を見ると、職員研修の充実、人事評価制度導入による人材育成と処遇反映、業務の質・量に応じた適材提起所な人員配置。定員適正化計画の管理推進と4項目上がっている。したがって今の問題について執行部が掲げている項目を補強する形ででも、現にそういう項目が上がっている中で、その中を豊富化するでもよい。
- 澁谷委員長 ほかにあるか。
(「なし」という声あり)
- ではこれを書き直してまた提出したい。

皆、今月いっぱいまでをお願いする。以上でこの項目を終了する。

4 その他

澁谷委員長
串崎委員

先般、視察の話が出ていたがその経過を報告いただく。

この前皆と、今回の申し入れ事項のDXについて視察研修という意見があり、出雲市と松江市について事務局にお願いして調べてもらったが、コロナも収束しておらず難しいという回答をいただいている。延期か中止かという形になろうかと思うが、とりあえず延期ととらえさせていたいただきたいのだがどうか。

澁谷委員長

議長から、中国管内は視察を検討してもよいという話があり、うちの委員会ではより配慮して島根県内を提案したところだが、出雲も松江も感染が広がって受けていただけられないようである。この案については現状6月1日から3日まで確保してもらっていたが、中止に近い形での延期になるかと思う。そういう判断でよろしいか。

(「はい」という声あり)

幹事には感謝する。

では次回の委員会日程を決定したい。

《 以下、日程調整 》

では6月2日水曜日の午前10時から開催させていただいてよろしいか。

(「はい」という声あり)

ではそのようにスケジュール表に記入いただくようお願いする。

ほかに何かあるか。

(「なし」という声あり)

以上で第20回自治区制度等行財政改革推進特別委員会を終了する。

(閉 議 12時27分)

浜田市議会委員会条例第65条の規定により委員会記録を作成する。

自治区制度等行財政改革推進特別委員会 委員長 澁谷 幹雄 ㊟